

山 中 だ よ り

山中
キャッチ
フレーズ

してもらう
させられる人から
する人へ

枚方市立山田中学校 学校通信 第4号

発行 令和元年5月16日 校長 交久瀬 善浩

◆◆中間テストが終わりました◆◆

11・12日の両日で中間テストが終わりました。そしてテスト結果が概ね戻ってきたと思います。どうだったでしょうか。思い通りの結果が残せましたか。

特に初めて中学校の定期テストに臨んだ1年生は、緊張の2日間だったと思います。でも思ったより簡単だったと感じた人が多いのではないのでしょうか。でも決してこの程度なら楽勝だと気を抜かないで下さい。今回は中学校の勉強が始まってすぐということもあり、範囲も少なく、それほど難しい問題も出題されなかっただけです。2学期そして2年生と進むにつれて、内容も難しく、テスト範囲も多くなり、出題される問題も難しくなります。安心せず気を引き締めて、今後のテストにも臨むようにしてください。



定期テストは、その期間の学習範囲をどのくらい理解し且つその内容をどのくらい応用できているかを確かめるためのものです。ですから満点であれば、今回の学習範囲は完璧ということになります。逆に、満点でなかった人は、満点から自分の得点を引いた点数分の学習が不足していたことになります。お金で言えば、借金と同じです。これを放っておくと高校入試のときに取り返しのつかないことになります。必ず、間違ったところを学習しなおし、借金（学習不足）は早く返済（解消）するようにしましょう。

3年生のみなさん、いよいよ高校入試に直接的に関わる定期テストの1回目が終わりました。3年生として踏ん張れたでしょうか。

このあと、6月19日に府のチャレンジテストがあります。調査書に記載されるあなた自身の成績を左右するテストです。修学旅行や体育祭もありますが、それまでにしっかりと2年生までの復習をしましょう。がむしゃらにやって丁度良いくらいだと思います。3年生の本気を見せて欲しいと思います。期待しています。

◆◆3年生は来週、修学旅行に行きます◆◆

3年生は、来週22日（水）から24日（金）まで2泊3日で、信州飯田方面に修学旅行に行きます。3年生のみなさん準備は進んでいますか？特にバスレクや夜のクラス活動（レクリエーション）の計画や準備は大変だったと思います。

中学校の修学旅行は、ほとんどの人にとって一生に一回です。そして、ずっと思い出として残るものです。その思い出を素晴らしいものにするか、それともつまらないものにするか…。すべてはあなた自身の心の持ちかたや行動にかかっています。ではどうすれば素晴らしい修学旅行になるのでしょうか。

それは人により様々ですが、まずはお客様として参加しないこと、それが大切だと思います。お客様として参加すると、どうしても「連れて行ってもらう」修学旅行になるからです。もちろん費用は保護者の方に出してもらい、交通手段や宿泊施設等々の手配は旅行者の方や学校でしますが、そういう意味での「連れて行ってもらう」ではなくて、修学旅行中の活動に自分が主体的に参加しているか、それとも他人任せで自分は何もしないで指示された行動をするだけの参加の仕方をするのかということです。

何事もそうですが、自分が主体となって考え、計画し、行動すると、例えばそのことがつまらなくてしんどいことでも面白くなります。やり切ったあとはすごく充実感が残ります。それと同じで、修学旅行もバスレクやクラス活動に計画段階から積極的に考え、参加すると、ぐっと楽しくなります。充実感も味わえます。

例えば、クラス活動である班が出し物をして、それが上手くいっていないとしたら、そのときに「なんやこの班、おもしろいやん」と文句を言うのではなく、その場で、自分がどうやったらこれを盛り上げて楽しくできるかを考え、行動に移す。それができれば、あなたは主体として参加したことになります。



「してもらう させられる修学旅行ではなく、する修学旅行」にして、よい思い出を残しましょう！

◆◆考えてみよう！！～スマホの使い方について～◆◆

前号の3号から始めていますが、「山中だより」では、みなさんに考えてほしいことを、この「考えてみよう！！」のコーナーで掲載します。考えてほしいことの内容については、これという正解があるものはありません。すべて、自分がどう考え、どう行動するかを自分で考え、自分なりの答えを出し、そして自分で行動していく等の材料になるものを提供します。じっくり読んで、しっかりと考え、自分の行動を決めていってください。

それでは、第2回目の「考えてみよう！」です。まず、次の記事を読んでください。これは、ネット上に載っていた「AERA」という雑誌記事の一部抜粋です。

『「教科書が読めない」子どもたち 教育現場から見た深刻な実情』から、一部抜粋転載。

子どもの読解力やコミュニケーション力に異変が起きている。その原因は何なのか。気になる調査結果がある。カギとなるのは、10年以降急速に普及し、内閣府の調査で今や青少年の約6割が使用しているスマートフォン。これが、言語機能やコミュニケーション機能をつかさどる脳の前頭前野に悪影響を与えている可能性があるというのだ。

調査を行ったのは、ニンテンドーDS用ソフト「脳トレ」シリーズの監修者としても知られる東北大学の川島隆太教授だ。仙台市立小中学校の児童・生徒7万人を対象に追跡調査した結果、スマホの使用で明らかに学力が低下し、使用を中止するとまた学力が向上するということが分かった。

なかでも、LINEなどメッセージアプリの影響が大きく、17年度の調査では、LINEなどを全く使用していない生徒の4教科の平均偏差値が50.8なのに対し、使用時間の長さに応じて偏差値は下がっていき、1日4時間以上使用している生徒の偏差値は40.6。実に10以上の差がついてしまった。川島教授によると、学習時間は十分にあって、友人とメッセージをしながら……といったマルチタスク化が進むことで集中力がそがれ、勉強の効率が落ちてしまったことが要因の一つと考えられるという。

さらに恐ろしいことに、スマホを長時間利用すると、読書をした時に活発に働く前頭前野に、安静にしている時よりもさらに働かなくなる「抑制現象」が起き、健常児でも言語機能の発達に遅れがでることがあるらしい。この抑制現象はテレビやゲームを長時間利用した時にも起こるという。

「スマホはお酒と同じで、『利用時間を1時間以内に留める』など、自制心を持って利用すれば悪影響は出ないことも分かっています。ただ、それは大人でもかなり難しいことだと思います」(川島教授)
相手の気持ちを思いやった上で言葉を発したり、試行錯誤したり、新しいアイデアを発想したり……。前頭前野が担うのは、AIが苦手な、かつ人間が得意とする「思考」や「発想」だ。AI時代を生き抜くために最も必要とされる能力が、スマホやテレビ、ゲームといった、かつて人が生み出した機器によって衰えつつあるとしたら何とも皮肉だ。



この記事を読んで、どう思いましたか？この記事の内容は、昔から言われてきた内容で、特段新しいものではありません。最初はテレビの長時間視聴、その後はテレビゲームの長時間使用、そして今回スマホの長時間使用。但し、今回異なっているところがあります。それは、昔は研究者が警鐘を鳴らしているだけで、科学的な根拠となるデータ等が無かった。それが、今回は科学的なデータを下に、より確実なものとして提示されたのです。

スマホを持っている人、これから持とうとしている人、あなたは今どんな使い方をしていきますか？そして、これからどのような使い方をしようとしていますか？自分自身と照らし合わせて考えてみてください。学校を離れた場でのスマホの使い方は、あなた自身が決めることです。保護者の方を除いて、他の誰も制限できません。どう使おうと自由ですが、その結果がすべてあとであなたに返ってくることを、決して忘れないようにしてください。

今のスマホをとるか、未来の自分をとるか、あなた自身で考え、答えを出してください。